

FLYING FISH



44

2010 WINTER

〔フライング
フィッシュ〕



INTERVIEW

中田 慎介 教授

地震と心のセキュ リティ対策へ

人と社会の秘めたる可能性を探れ!

NEWS

“楽しい”を歌に乗せて届けたい アカペラ同好会

地域活性化のスペシャリストに! その名も“まちづくりリスト”

大学祭 Flying Fish Festival 2009 PHOTO GALLERY

学生たちの日々

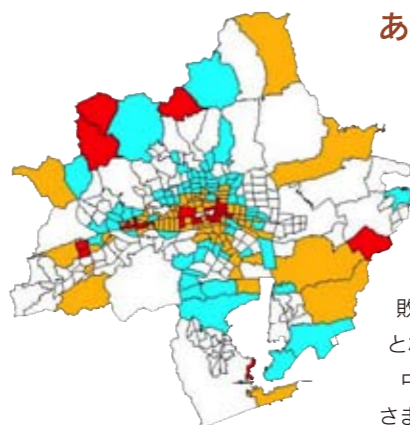
楽しく幻想的なキャンパスに/
バレーボール部が2部昇格!/
物部川への感謝祭/FIT2009
論文賞受賞/地域の登山道を整
備/かかしコンテストで見事入
賞/自作電気自動車を紹介!/
公募論文で優秀賞受賞

表紙のコトバ=相棒はナマズ君

中田先生は地震防災のスペシャリスト。来るべき南海地震の被害を最小限に食い止めるべく、地震を予知するナマズ君との協力体制も万全!?

地震と心のセキュリティ対策へ 人と社会の秘めたる可能性を探れ！

阪神淡路大震災直後の神戸市中心部。この時の体験が防災総合データベースの構築へとつながっていく。



高知市の木造建物倒壊率を示したマップ。地域毎に建物密度や木造建物率、人口密度などの情報を重ね合わせて、南海地震による倒壊危険地域を抽出した。

あらゆる組織の潤滑油

この人を前にすると、たとえ初対面でも本音で何でも話してしまう。そんな懐の深さと求心力を持ち合わせる中田先生は、あらゆる組織の“潤滑油”として、はたまた自分の能力をうまく発揮できない学生たちの“駆け込み寺”として高知工科大学にとってなくてはならない唯一無二の存在だ。とにかくサービス精神が旺盛で、真面目な話をしているかと思えば、自らの失敗談をオチに相手を笑わせることもしばしば。常に笑いが絶えることなく、その屈託のない笑顔には人を安心させる力がある。

中田先生は、本学教授の他にも中国・四国耐震評定委員長をはじめさまざまな肩書きを持ち、新しい組織の立ち上げとなると決まって声が掛かる。「いつも僕は“バカ殿様”でやってるから、みんなが安心して本音話してくれるんだよ」と自らを評する中田先生。どんな役職に就こうとも決して偉ぶらないその親しみやすさ。先生が上に立つと自然と組織がまとまっていく、そんな不思議な統率力の持ち主だ。

トップ技官からの転身

中田先生は日本を代表する耐震建築の専門家である。1995年の阪神淡路大震災では、当時在籍していた建設省のトップ技官として被害調査の最高責任者に任命され、陣頭指揮をとった。「それまでは耐震建築を専門にやってきたけど、都市一つを守るのに耐震だけじゃないと痛感した。都市を構成するインフラ、つまり電気、ガス、水道、道路、電話、そういったものを総合的に考えないと、都市の地震防災ってどうにもならないなって」。



4Bの鉛筆で大きく描くこと。これがすべての基本だ。まずは「初心に戻る」ことが心の問題を和らげる近道であることを中田先生は教えてくれる。

そんなやりきれない思いを抱えていた頃、東京大学の先輩だった岡村甫先生（現理事長）の誘いで、本学へ赴任する。「高知にまったく新しい大学をつくるから来ないかと言われてね。これからは建築とか土木でなく、もっと大きく捉えた総合的な学問が必要だということで、“社会システム工学”という新しい分野に飛び込んだ。みんなそれぞれ自分の専門で深い所を走っているかもしれないけれど、全体を俯瞰することが大切なんじゃないかって」。阪神大震災の教訓を、社会システム工学科で体現したい。中田先生は同学科長に就任した。

そして赴任後、すぐに高知市の地震防災に関する調査・研究に着手。高知市内にある約14万棟の建築物の築年数や構造、さらには水道、電気、通信回線などのライフラインをデータベース化し、数十年以内に起こるとされる南海地震の被害予測に加え安全な避難経路の提案を行った。「予測に基づいて最も効果の高い取り組みを行うことで、被害を最小限にできる」。自らの経験に基づいたその言葉には重みがある。

学生たちのポテンシャル

そんな研究活動の一方、学生たちへの親心が徐々に表れ始める。それが今や先生のライフワークとも言うべき学生たちの“心のケア”だ。「心が壊れかかっちゃってる学生がたくさんいてね。それは、今の中学・高校の教育にまったく馴染めてないことが原因だとわかった。いまの世の中、大人の栄養剤はあっても、中高生の“心の栄養剤”がどこにもない」。

そういう中田先生のやり方はこうだ。まず学生に中学・高校の教科書とA4判ノートを10冊持参させる。そして4Bの鉛筆を使って、文章問題を“絵”に描いて解かせる。読んで勉強するのは数学じゃないというのが先生の教えだ。「数学ってこんなに面白かったんですか!」って言われたときは嬉しかったね。このやり方で今まで調子が悪かった子の8割近くが伸びていった。その伸び方も半端なく大きい。これは面白いと思ってね」。

本や新聞を読んでも、心の栄養剤となり得る言葉を見つけると、迷わずストックしておく。「一人一人の眠っている要素が目覚めたら、可能性がどんどん出て来る。おもしろえぞ!」こんな先生の愛情溢れる一言一言も学生たちにはよく効く栄養剤となっている。

高知県への恩返し

昨春設置された新たな地域貢献のあり方を目指す地域連携機構。中田先生は同地域連携センター長も兼任する。「結局組織っていうのはそこにいる人間一人ひとりの関数なんだよ。能力をうまく組み合わせることで、みんなの意識が高揚する。僕の役割はそんな潤滑剤をやればよいのかなと思う」。人のポテンシャルを最大



限に引き出す。相手が学生であれ組織であれ、一番大事なことは変わらない。

そして今、同センターで取り組み始めたのが、高知湾の沿岸部をコンクリート廃材を活用して魚が住み着きやすい魚礁にしようという計画だ。1960年頃から建設ラッシュが始まり、鉄筋コンクリートの建物が全国に相次いで出現した。しかし今では老朽化してしまった建物は解体を余儀なくされ、年間6億トンにもなるといふコンクリート廃材の処理が問題になっている。「私は鉄筋コンクリートの耐震をやっていたから、廃材まで面倒を見るのが義理というもの。沿岸漁業でお金になる魚がたくさん獲れることで、高知県の漁業、そして飲み屋街がもつと元気になってほしい」という。

中田先生は鎌倉生まれの東京育ち。義理人情に厚い生粋の江戸っ子だ。最愛のお父さんが2年前に93才で他界したとき、強く感じたことがあるという。「うちの親父を見ていて、60才までの業績なんて全然意味ないやと。60からの人生を人に迷惑かけずに楽しく生きていけた方が勝ちだなと。高知の皆さんには本当にお世話になっているので、恩返しをしたい。みんなが生き生きと暮らせるようなことをしていきたいよね。本気になってやれば、何とかなるんじゃない!?」

先生は今年で御年67才。学群の教授としては今年度末で退職という大きな節目を迎える。そんな先生の新しい第二の人生は、お世話になった高知県のポテンシャルを探ることから始まる。

高知の食、楽しんでまず週末はおさかな三昧!

毎週末は自宅近くの直販所へ朝早く買い物に出かけ、新鮮な魚を買い求めるのが楽しみの一つだという中田先生。「東京だと1匹3千円もする魚が、こっちは何百円で買えるんだよ」とホクホク顔。魚をさばくのももちろん自分で。料理するのも趣味の一つだという。中田先生のエネルギーの源は、高知の食にあり。



Nakada

FF TOPICS

エフエフトピックス

TOPIC 1

“楽しい”を歌に乗せて届けたい アカペラ同好会

楽器を一切使わず声だけでハーモニーを奏でる“アカペラ”同好会は、部長の木田正輝君(マネジメント学部1年)が中心となり、昨年6月に立ち上げられた新しいサークルです。元々歌うことが好きで、大学ではアカペラをやろうと心に決めていたという木田君。しかし、いざ入学してみるとアカペラサークルがなく意気消沈していた矢先、思いがけない出来事に遭遇します。「オリエンテーション合宿で同じ部屋になった坂本君が、なんと夜中に突然歌い始めたんです。最初はなんて迷惑な奴なんだと思ったんですが(笑)、それがまた上手くて。すぐに彼を誘ってメンバー募集のポスターを作り、学内に貼りました。それで続々と今のメンバーが集まってきた。坂本君の歌声によって木田君の諦めかけていた熱い思いが一気に動き出したのです。

現在部員は合唱部出身者から未経験者まで1年生ばかり8人。うち男女3人ずつの計6人が“ひろようし”というグループ名で活動しています。“ひろようし”とは、九州の方言で「模造紙」のこと。真っ白な紙を自分たちの歌で染めていきたい。そんな思いが込められています。

彼らの初舞台は、昨年10月25日(日)に物部川の河川敷にて行われた物部川川祭り(P.7参照)。約50人の観客の前で初めて歌声を披露しました。

ひろようしのメンバー(左から)
伊藤生絵(あえりん) 情報学群/高知出身
坂本拓也(さかたく) マネジメント学部/高知出身
北村彩(らあや(P)) マネジメント学部/高知出身
伊藤大貴(びん) 情報学群/高知出身
馬原菜摘(まますん) マネジメント学部/熊本出身
木田正輝(ぶちよ) マネジメント学部/長野出身



「とっても楽しかったです。でもその楽しさは自己満足にすぎません。これからは聞いていただく皆さんにも一緒に楽しんでもらえるようなステージを目指していきたい」というメンバーの北村さん。そして、続く11月7日(土)の開学記念日行事では応援歌「燃やせ土佐魂」を初披露しました。

そんな彼らには大きな目標があります。「一番は“ハモネブ”の最終予選に進出し、テレビに出ることです。あとは、この同好会をもっと大きくして人数を増やしていきたい。そして、ゆくゆくは外部のグループとのコラボレーションもしていきたいですね」と語る木田君の表情は真剣そのもの。和気あいあいとした雰囲気の中にある、目標へと近づこうとするひたむきな姿勢。彼らの爽やかな歌声とともに、高知から全国へと新しい風が吹き抜ける日もそう遠くはないかもしれません。



物部川川祭りでのステージの様子。“川”にちなんでメンバー全員カッパに扮装!「歌はもとよりMCの難しさを思い知らされました」というのはメンバーの坂本君(写真右から2番目)。

メンバー募集中!
僕らと一緒にハモネブ優勝を目指しましょう!
お問い合わせは
hiroyoushi@gmail.comまで。

TOPIC 2

地域活性化のスペシャリストになろう! その名も“まちづくりリスト”

地域づくりの専門家を育成するため、札幌学院大学、法政大学、沖縄大学の3大学と共同で「全国の地域で活躍できるプロフェッショナル『まちづくりリスト』育成プログラム」が開始され、去る12月5日(土)に那覇市で調印式と記念シンポジウムが行われました。文部科学省「大学教育充実のための戦略的連携支援プログラム」に採択されています。このプログラムは地域活性化に取り組む大学が連携し、地域再生の方法論を探りながら、どんな地域の活性化にも取り組めるスペシャリスト『まちづくりリスト』の育成に向けた教育カリキュラムの確立などを進めるものです。

本学ではマネジメント学部が中心となり、連携する大学との遠隔授業や研究事例のデータベース化に取り組み、高知の活性化に貢献することをめざします。



調印式で連携校代表と握手する佐久間学長(左から2番目)

TOPIC 3

KUT大学祭Flying Fish Festival 2009 PHOTO GALLERY 2009.10/17(土)~18(日)

大学祭「Flying Fish Festival 2009~CHANGE~」が10月17日(土)~18日(日)の2日間にわたって開催されました。13回目を迎えた今回のテーマは「CHANGE」。公立大学法人化し、進化・発展し続ける本学と同じように、今までの伝統を引き継ぎつつ、より勢いのある大学祭にCHANGEしていきたいという思いが込められました。たくさんの方々にお楽しみいただいたその模様を誌面上で再現しました。



ご来場くださった皆さん、本当にありがとうございました!



学生が組織する「大学祭実行委員会」が中心となり、企画から会場準備・運営まですべて手作りでを行っています。

豪華景品が当たるゲーム、よさこい演舞、吹奏楽部やロックバンドのライブ、フリーマーケットなど、イベントが盛りだくさん。子どもからお年寄りまで皆さんに楽しんでいただきました。

学生たちの日々

Students' life report.



KUT+illumination2009 楽しく幻想的なキャンパスに



12月1日～1月5日の約1ヶ月間、キャンパスがイルミネーションで彩られました。KUT+illumination2009と名付けられたこの装飾は、多くの方々をキャンパスを訪れていただき、本学をより身近に感じていただくため、学生が主体となって行われるもので、今回で7回目となりました。ライトスケープデザインという考えを取り入れ、約3万球のLED・電球を使用し、キャンパス本来の夜景の美しさを最大限に活かしています。

2009年度のテーマは「Funtasy」。幻想などを意味する「Fantasy」と、楽しいなどを意味する「Fun」の2つを組み合わせたオリジナル造語です。これまでのデザイン技術を引き継ぎつつ新たな試みも取り入れ、幻想的な光の空間の中に遊び心がちりばめられたデザインで、訪れた方を楽しませていました。

12月23日(水)にはクリスマスイベントも開催され、吹奏楽部やアカペラ同好会によるコンサート、キャンドルづくり体験教室など、学生たちが訪れた方々とともに楽しむ姿が印象的でした。



(財)人工知能研究振興財団主催 公募論文で優秀賞受賞

財団法人人工知能研究振興財団設立二十周年記念式典にて記念論文の公募があり、岸雅基君(工学部電子・光システム工学科4年)の論文「人とロボットにおける境界」が優秀賞を受賞し、12月2日(水)、授賞式に出席しました。

同財団は、産業界が中心となり、AI*に関する研究の振興を図り、産業技術の高度化及び経済の健全な発展に寄与することを目的に設立。この記念論文は設立二十周年を記念して「ロボットと共生する、未来社会」をテーマに国内在住の大学生・大学院生を対象に募集されたものです。

「徹夜作業となった投稿論文の成果が出てよかった」と岸君。この受賞を励みに研究活動へとさらに邁進してくれることでしょう。

*Artificial Intelligence (人工知能)



監督を迎えた初リーグ戦で快挙 バレーボール部が2部昇格!

バレーボール部(男子)が、昨年10月に開かれた四国大学バレーボール連盟秋季リーグ戦の3部リーグで見事1位となり、2部に昇格を果たしました。指導者のいなかった同部は初めての監督を迎えたことを契機に同連盟に加入、初めてのリーグ戦での快挙となりました。

監督である楠瀬就職支援部長は学生時代に関東1部リーグでレギュラーを務め、実業団チームからオファーを受けたほどの選手。それを知る学生からの度重なるラブコールに応え、一昨年の11月から「真剣にバレーボールに取り組むのであれば」という条件で監督に就任しました。

「就任後は練習がキツくなったのはもちろんですが、周囲の部活もより真剣に取り組むようになってきた。『部活とはこういうもの』と感じてくれたのでは」と、思わぬ波及効果もあった様子。「やるからには上を目指そうという気持ちです。部活を通して何かをやり遂げた、買ったという経験は就職活動にも将来にもきっと役立つはず」と在学へのメッセージを送ってくれました。



森林の恵みに感謝する「こうち山の日」 自作電気自動車を紹介!

11月29日(日)に高知県森林総合センター 情報交流館にて実施された「こうち山の日」のイベントに、エコを推奨する団体として本学電気自動車部「電鋭創造工作車輻部隊」が参加し、自作した電気自動車の展示・説明を行いました。

11月11日(水)は「こうち山の日」。これに因んで行われた同イベントは、地元児童が山や川で採取した動植物などの研究成果をまとめたパネル展示や間伐材を使った木工体験など、環境を楽しく学べるもの。多くの方々が電気自動車に興味を示してくださり、中には、現在の仕様を超えた提案をいただく場面もあり、部員たちは皆さんの環境意識の高さを改めて実感したようでした。



試乗ができるよう準備を進めてきたものの、あいにく制御システムのトラブルにより展示・説明のみとなりましたが、皆さん電気自動車に興味津々の様子でした。



年に一度、川にありがとうを言う日 物部川への感謝祭

10月25日(日)、物部川河川敷において、物部川川祭り実行委員会と流域団体でつくる物部川21世紀の森と水の会の主催による「物部川川祭り」が行われました。

「この川にありがとうを言う日」というキャッチフレーズに沿ったイベントや物産展、パネル展示が行われ、本学からも「しばてんゲーム」(机の上でカップのおはじきを落とす合戦ゲーム:渡邊研究室学生)と「ひろようし」(アカペラ同好会)によるアカペラの披露、カヌー教室(大学事務局職員有志)がイベントとして参加しました。

さらに、フィナーレでは、「ひろようし」が主体となりお客さんと一緒に「ふるさと」の合唱を行いました。日頃恩恵を受けている物部川への感謝の気持ちを十二分に伝えることができたのではないのでしょうか。



物部川や高知県にちなんだ歌の披露や川と触れ合う体験教室など、子どもからお年寄りまで楽しめるイベントとなりました。



エコでハイテクな次世代かかし かかしコンテストで見事入賞

知能機械システム工学科の知能制御工学研究室の学生たちが製作した「かかし」が、10月17日(土)、18日(日)に行われた第28回刈り物祭り(大学祭同時開催)での恒例イベント「かかしコンテスト」にて入賞しました。

題して「ちょいテクかかし」は近くで音がするとその方向を振り返り、目を光らせ、声を出して相手を威嚇するという機能を備えています。さらに、電源には太陽電池を利用するなど環境にも配慮したまさに「次世代かかし」。会場では、本学らしいハイテク技術を応用したかかしに皆さん興味深く見入っていました。

この経験を糧に来年はどんなかかしが誕生するのか、早くも期待は膨らみます。



採択率6%の難関突破! FIT2009論文賞受賞

9月2日(日)に開催された情報科学技術フォーラム(FIT2009)にて、任向賢教授(情報学群)と孫銘会さん(大学院博士後期課程基礎工学コース2年)が論文賞を受賞しました。

FITとは、電子情報通信分野における国内最大の2学会、情報処理学会と電子通信情報学会の情報・システムソサイティおよびヒューマンコミュニケーショングループとの共催で年1回開催される大規模学術イベント。この賞は同会において査読付き論文の中から特に優秀と認められた論文に贈られるもので、今回は161件のうち、11件が採択されました。じつに6%の採択率という中での快挙となりました。



自然を学ぶ絶好の機会に 地域の登山道を整備

大学から北東約40kmにある矢筈山は、多くの登山者に愛され、とりわけ矢筈から小檜曾に至る稜線は感動的な景観です。しかし、近年、登山道の整備が十分に行われておらず、登山道の所々でクマザサが茂り、道を隠しているため、登山者の歩みを妨げています。

そこで、10月29日(木)、地元の香美市、森林組合、本学職員の協力で笹刈りを行い、11月8日(日)には本学学生と職員で最後の仕上げのため、登山道の整備を行いました。当日は、汗ばむほどの秋晴れとなり、整備作業だけでなく、すれ違う登山者との会話を楽しんだり、山道の環境を通して、物部川流域の自然環境(登山道の荒廃等)を学ぶ絶好の機会となりました。



交差点にアルファベットで道案内 “ココ!マーク高知”がグッドデザイン賞

高知県交差点記号化協議会(事務局:高知県土木部道路課)が主体となって進めている「ココ!マーク高知」が、この度、2009年度グッドデザイン賞を受賞しました。

ココ!マークとは、道案内をわかりやすくするため主要交差点に目印としてアルファベット1文字を記した案内システム。2008年より本格運用されており、2010年1月18日時点では、高知市内・須崎市内の41箇所交差点に設置されています。

本学地域ITS社会研究室長の熊谷靖彦教授は、高知県交差点記号化協議会の副委員長を務め、同研究室ではココ!マークが記載された地図やアンケートを、高速道路SA等で県外観光客向けに配布し、調査や普及活動を行ってきました。

「遠方からの視認性、高齢者でも早い解読性などにより、右左折などの間違い、渋滞、事故などの軽減につながりシンプルで解りやすい」と審査委員から高く評価され、今回の受賞となりました。

ココ!マーク高知HP
<http://www.pref.kochi.lg.jp/~douro/cocomark/index2.htm>



心理学分野で独創性が評価 田島先生が論文賞2賞を受賞

昨秋、共通教育教室 教職課程の田島充士講師(専門分野:教育心理学、発達心理学、臨床心理学)が、「日本教育心理学会城戸奨励賞」ならびに「筑波大学心理学独創研究内山記念賞」の2賞を受賞しました。

受賞論文の題名は「再声化介入が概念理解の達成を促進する効果ーバフチン理論の視点からー」。自分なりの解釈を行わないまま学校で教授される概念を暗記してしまう学習傾向「分かったつもり」を「理解」へと発展させるため、学習者らの解釈を対話的に深める「再声化介入法」を開発。また、これまで数量的検証によるデータが提供されてこなかったこの種の教育実践法の効果に対して、厳密な客観的実験法に基づく検証を行った点で、学術的な独創性および教育現場に対する貢献度の高さが評価されました。教育心理学分野の新人賞とも称される「日本教育心理学会城戸奨励賞」、創設と同時の受賞となった「筑波大学心理学独創研究内山記念賞」のダブル受賞は大きな栄誉といえます。

2008年4月に設置された教職課程は、田島先生をはじめとした優秀な研究者を迎え、未来の教師が育つ環境を整えています。



それぞれの新たなステージ 平成21年度秋季卒業式・入学式

9月30日(水)、平成21年度秋季卒業式が挙行政され、学部1名、大学院修士課程1名、博士課程9名(うち外国からの留学生6名)が新たなステージへと旅立ちました。特に留学生は卒業と同時に帰国となるため、教員や友人、キャンパスとの別れを惜しむ姿も見られました。

続く10月1日(木)には、平成21年度秋季入学式が挙行政されました。皆一様に希望に満ちあふれた表情で、これからの研究活動に精一杯励んでくれることでしょう。



KUT 活動報告 2010年 Autumn-Winter

開学記念日・公開特別講演 「地域の再生とその将来像」

11月7日(土)、開学記念日行事の一つとして、片山善博先生(慶應義塾大学法学部教授、前鳥取県知事)を講師にお招きし「地域の再生とその将来像」と題した公開特別講演が本学講堂で行われました。

行政刷新会議メンバーでもあり、多忙を極める片山先生はまさに「時の人」。県知事時代のウラ話や事業仕分けなどについても具体的な事例をあげながら非常にわかりやすくお話しいただき、約350名の参加者の皆さんも楽しみながら、地域が抱える諸課題について理解を深め、考えるきっかけとなったようにでした。



「再生こそが今日の最重要テーマ。文字通り地域は再生しないとイケない状況」という危機感を表した言葉が印象的でした。



開学記念日行事は、成績優秀者等の表彰式や吹奏楽部の演奏、アカペラ同好会の応援歌披露など、多彩なプログラムで行われました。

4大学県民講座 「自分らしく老いる part 2」開催

今回で2度目の開催となる高知大学、高知女子大学、高知工業高等専門学校、高知工科大学による合同イベント「4大学県民講座～自分らしく老いる part 2～(主催:高知学長会議)」が、12月20日(日)に高知女子大学永国寺キャンパスにて開催されました。

一人ひとりが、心身ともに健やかに、自分らしく老いていくための社会的な支援や自助努力について考える機会とするため、大学・高専の研究者がそれぞれの専門分野から講演を行い、体験型の展示コーナーを用意しました。

本学からは、三浦直樹講師(システム工学群・知能ロボティクス研究室)が「人間をサポートするロボット:工学と脳科学の融合」と題した講演を行い、脳から計測した情報を利用して介護福祉に役立つロボットを開発する研究の最前線を紹介しました。

展示コーナーでは同研究室の王 碩玉教授が開発した歩行訓練ロボット「歩行王(アルキング)」を展示し、学生たちが来場された方々に実際に体験していただきながら説明をしていました。

講演・展示コーナーともにたくさんの質問が飛び交う様子を、高齢化先進県ともいわれる本県の関心の高さを感じました。



抜群のロケーション！ サイエンスカフェで光の世界へ

お茶を飲みながら科学者と直接語り合うアットホームなイベントとして、第9回目となるサイエンス☆カフェin高知(主催:サイエンス☆カフェin高知実行委員会)が、キャンパスイルミネーションのクリスマスイベントの一環として本学で開催されました。

今回のテーマは『光の科学～光であやつる、光をあやつる～』。イルミネーションで彩られたキャンパスで木村正廣先生(環境工学群、高知工科大学ナノ創製センター教授)を講師に迎え、光の不思議な世界に引き込まれるには充分すぎるロケーション! 定員(40名)を超える参加者があり、大盛況のうちに幕を閉じました。

このイベントは、実行委員に学外の方を交え、一般参加者の視点を重視した展開を続けています。普段考えているよりもずっと身近にサイエンスはあります。ここ高知をサイエンスに満ち溢れた町にしたい! そんな一研究者の想いからスタートしました。これからも皆さんのご参加をお待ちしております。



参加費はドリンク&ケーキ付きでワンコインの500円。学生のみならず、地域の皆さんもぜひ奮ってご参加ください!

春の風物詩をさらに満開へ 300本の桜を植樹



11月26日(木)、本学が財団法人日本宝くじ協会の助成を受け実施する「平成21年度緑化推進(宝くじ桜若木植栽)事業」において、「鏡野公園クリーンアップ推進協議会(本学、高知県土木部、香美市・公園利用団体等で構成)」の協力のもと、本学と鏡野公園の間の桜並木付近を中心に「桜の苗木」(42本)の植樹が行われました。今後さらに本学を中心に合計300本もの苗木を、桜並木付近から本学のキャンパス内にかけて植樹する予定です。

同公園は、「日本さくら名所100選」の一つに選ばれており、今回の植樹を通して地域住民の方々とのふれあいの場が一層充実し、春の心地よい季節をより楽しんでいただけるものと期待しています。また学生たちには、桜で迎えられ、桜で見送られるキャンパスライフを提供するとともに、心に残るような景色を感じてもらいたいと考えています。

学生だけでなく地域の皆さんも利用 附属情報図書館が入館200万人達成!

12月2日(水) 午後1時30分、高知工科大学附属情報図書館の入館者が200万人に達しました。

栄えある200万人目の入館者となったのは、工学部物質・環境システム工学科2年佐竹隆史君と赤瀬光一君。二人並んでの入館だったため、同時に200万人目と認定し、附属情報図書館長 篠森教授(情報学群)より記念品が贈られました。

「普段からよくト前などは深夜室で勉強するこ人。1997年に開学2003年10月ですとに100万人の入ります。300万人のさならるご利用

祝

高知工科大学附属情報図書館
入館200万人達成



利用していて、テストまでメディア学習とも多い」という二し、100万人達成がから、およそ6年ご館という計算にな達成の日が早く訪ちろん、地域の皆様を期待しています。

11月7日(土)、平成21年度開学記念日行事が執り行われ、各種表彰ならびに名誉教授称号授与が行われました。

学長表彰

2年次以上の学部生で学業成績が優秀な学生に対して与えられます。

	物質・環境	知能機械	電子・光	情報	社会	マネジメント
2年次生	右川 貴子	新本 優	森本 晃	和田 倫弥	秋山 心平	竹村 祥崇
	森 康行	岩浅 僚	森永 貴大	清水 滋仁	門田 龍介	山中 祥平
	小野 みどり	小笠原 慧	西面 尚彰	山崎 弘法	芝床 仁志	西込 郁弥
	横濱 拓海	近森 翔太	近藤 祥平	今村 和貴	中阿地 卓也	坂本 里絵
3年次生	仲上 将央	山内 大嗣	西森 友康	尾原 功剛	福田 雄輝	前田 早紀
	清遠 英志	渡辺 悠人	筒井 宏	小松 佐典	小谷 慎吾	
	西澤 和展	戸田 直耕	陰山 和臣	彼末 和也	有澤 智人	
	藤原 誠	吉村 昂泰	常石 佳奈	栗田 彩加	片岡 慎	
4年次生	筒井 幸友	黒岩 敬生	尾川 景子	菅 優也	山本 真弓	
	鎌倉 昌士	大畑 彰吾	坂本 俊輔	山崎 康生	山本 貴志	
	白川 哲夫	伊賀上 貴幸	村上 陸彦	上村 祐加	國友 達也	
	沖本 さやか	島崎 太郎	川田 崇弘	野島 実洋	篠原 尚登	
	岡本 直樹	石立 康洋	和田 知己	中村 博輝	山下 匠大	
	梶原 秀一	松林 尚理	経免 健太	筒井 貴裕	竹林 ひかり	
	渡部 宏希	金澤 一成	高橋 智仁	耕崎 映菜	山本 知佐	

(敬称略)

学長褒賞

課外活動において顕著な成績、業績を修めた者、団体に与えられます。

Space.Lab 代表：野村 昌孝

教育本部長表彰

大学共通科目の「自然科学等科目」、「人文社会科学等科目」において優秀な成績を修めた学部3年次生に与えられます。

人文社会科学等科目成績優秀者

社会	山西 恭平
情報	山崎 康生
電子・光	常石 佳奈
物質・環境	河津 直紀
社会	川田 雲
知能機械	黒岩 敬生
情報	栗田 彩加
情報	楠葉 匡敏
情報	瀨本 拓郎
物質・環境	井上 翔太

自然科学等科目成績優秀者

社会	山本 真弓
電子・光	筒井 宏
知能機械	渡辺 悠人
電子・光	陰山 和臣
社会	田中 希枝
知能機械	戸田 直耕
社会	片岡 慎
物質・環境	西澤 和展
物質・環境	清遠 英志
電子・光	坂本 俊輔

(敬称略)

廣井勇賞

高知が生んだ先駆的技術者である廣井勇博士の名を冠したこの賞は、清きエンジニアの資質とリーダーシップを持ち合わせた者として、同級生及び教職員が推挙する学部3年次生に与えられます。

物質・環境	西澤 和展
知能機械	戸田 直耕
電子・光	石田 遼太
情報	稲葉 海斗
社会	射手 大河
フロンティア	小松 佐典

(敬称略)

名誉教授授与

本学の教授として多年にわたり勤務し、教育・研究面で優れた功績を残され、退任された方に対して授与されます。

岡村 甫
細川 隆弘
坂本 東男
野尻 洋一
横川 明

(敬称略)



HOT NEWS 2010

KUT 情報局

info1

大学院起業家コース叢書第5弾 『農業ビジネス学校』刊行!

社会人を対象にした実践的な起業家教育を行う大学院起業家コースの学生・卒業生・教員が、共著・単著の形で、様々なテーマについてまとめているビジネス書「KUT起業家コース叢書」の第5弾が刊行されました。

「儲かる農業」による地域の自立を目指して、ビジネスとしての農業に必要なマーケティング、財務、事業経営などの知識を、起業家コースの教員・講師・卒業生など計10名がやさしく解説しています。



KUT起業家コース叢書5
『農業ビジネス学校 -「自立する地域」への7章-』
高知工科大学大学院起業家コース 著
発行：(株)New York Art
発売：丸善(株)出版事業部
定価：2,625円(本体2,500円)
※お買い求めは、お近くの書店もしくはインターネット書店でご注文ください。

info2

吹奏楽部「WINDBRASS」定期演奏会「卒業コンサート」

毎年恒例、吹奏楽部「WINDBRASS」の定期演奏会「卒業コンサート」が今年も開催されます。大学祭や記念式典など様々な場面で活躍してくれている同部にとって唯一の定期演奏会であり、卒業していく学生たちにとっては活動の集大成ともなるため、先輩にとって最高の思い出となるよう部員一同懸命に練習に励んでいるようです。

J-POPからクラシック、アンサンブルまで、どなたにも楽しんでいただける内容ですので、ご家族、ご友人などお誘い合わせのうえ、ぜひご来場ください。

日時 2010年2月27日(土) 開演/14:00~(開場/13:30~)
会場 高知工科大学 講堂
曲目 久石譲メドレー、バイレーツオブカリビアン、TANABATA 他
※入場無料
当日は大学東駐車場を開放いたしますのでご利用ください。

土佐山田の魅力をお伝えします!!
YAMADA no YAMADA essey... Part.2



今にも倒れてきそうな大楠の迫力には、思わず声を失うほど。その力強さにとってもない生命力を感じます。

その① 「いげ 神母神社の大楠」

大学の近くには樹齢五百年程の大きな楠の古木があります。おそらくほとんどの人がその樹の存在に気付いていないのではないのでしょうか。私自身もその一人でした。

その楠は、物部川に架かる香我美橋のすぐ南の神母神社の裏手にあります。幾度となく水害にあつたと思われる程、幹は傾き、低い枝は流れの方向を向いています。力強く青々とした立派な葉を広がっています。

地元の方に聞いたところ、もともと神母は「稲毛」や「井手」といって、農作物や水の神様を祀っており、県内に同じ名前の神社が複数存在するようです。またこの辺り一帯は昔、

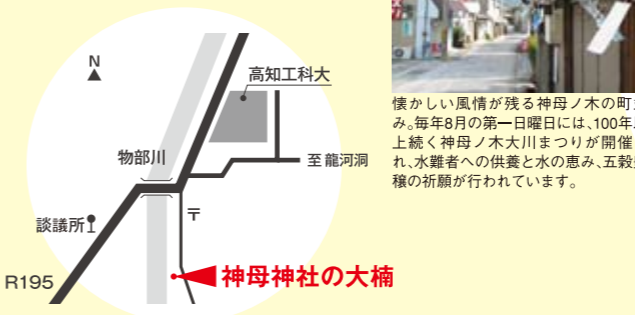
物部川上流からの物品を土佐の城下町へ運ぶ際の中継地にあたり、宿場町として栄えていたとのこと。そして文化年間の頃から、宿場町一帯を現在の地名「神母ノ木」と呼ぶようになったそうです。その名は神母神社の楠から由来するとの説もあり、大楠は町のシンボルとして慕われ町の天然記念物に指定されています。

宿場町は現在商店街となっており、古い町並みには喫茶店や魚屋、自転車屋などの店が並びます。7、8月には風が奏でる町と銘打って、「神母ノ木風鈴横丁」が行われ、軒下に飾られた風鈴が風とともに揺れゆく様は、町並みと相まって幻想的です。

物部川の畔で佇む大楠と、風が奏でる町「神母ノ木」ゆつたりとした時間の中で、風を感じに一度訪れてみませんか?



二代目山田くん 山田賢くん 工学部 情報システム工学科 3年



神母神社
香美市土佐山田町神母ノ木 物部川緑地公園左岸
JR土佐山田駅からJRバス大板行き、「談議所」下車、徒歩5分

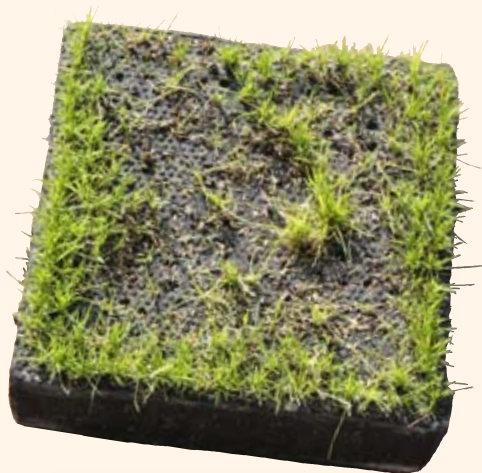
KUT 学生
特派員
報告 SPECIAL REPORT

見たい!
聞きたい!
知りたい!

人呼んで
ミコ、バイオカーボン
坂輪光弘教授
地域連携機構 連携研究センター
バイオカーボン開発研究室長

REPORTERS 学生特派員

佐々木則子さん 工学部 物質・環境システム工学科2年(左)
平山桂子さん マネジメント学部 マネジメント学科2年(右)



めざすは“付加価値のある炭”

工学部物質・環境システム工学科を定年退職後、地域連携機構・連携研究センターで研究を続ける坂輪光弘先生の研究室名は「バイオカーボン開発研究室」。この“バイオカーボン”というのは、“付加価値のある炭”を表しています。炭は、今まで燃料として以外には畑の肥料や家畜の脱臭などに利用されてきましたが、それだけではわざわざ買おうとする人はいませんでした。そこで坂輪先生はなんとか「買ってもらえる炭」を作ろうと、その炭を「バイオカーボン」と名付けたのです。

この研究室では主に古紙と、高知県に豊富な木質資源を有効活用し、炭でできた鉢や栽培床の研究が進んでいます。炭の栽培床は無菌で吸水性が良く、土に比べて軽量なため、木造家屋での屋上緑化など



先生の研究室。炭で作られた壁面のおかげか、空気もおいしく感じられるから不思議。

にも利用可能だそうです。他にも、炭と石灰を混ぜた不燃のボードを造り室内の壁などに貼り付けておくと、ホルムアルデヒド等の有害物質を吸着してくれます。坂輪先生の部屋には壁一面にこのボードが貼り付けられており、工科大一、空気のきれいな部屋だといえるのではないのでしょうか。これらの技術が実用化されれば、社会や環境にとって大きなプラスになりますね!

工科大発！次世代型の“炭”とは？

今回の調査テーマは「炭」！学生にとって炭って縁が遠いイメージ…。いえいえ、炭って意外と奥深いのです！工科大開学3年目から始まった炭の研究も今年で10年目。連携研究センターで炭の研究を続けている坂輪先生に突撃取材しました。これを機会に皆さんも炭の良さを知ってみませんか？



今回丁寧に説明くださった、バイオカーボン開発研究室の山崎助手。

炭から植物が生えてくる!?

では、バイオカーボン開発研究室の主な研究である栽培床の造り方を紹介します。まず裁断・粉碎した古紙と樹皮とおが屑を混ぜて成型し、機械で圧縮して水分を抜きます。さらに天日干して完全に乾燥させ、炭化炉で焼きます。こうして出来上がった炭は、焼く前の状態から二回りほど小さくなり、重さはなんと8割も減少します。そしてこの炭に穴を開け種を植え込むと、植物やキノコが生えてくるのです。炭から植物…これはスゴい！工科大でこんな大発見がなされていたなんて、知っていましたか？



これが炭になる前の原料。

ジッカンnote

炭の研究が始まったばかりの頃は、すべて手作りで炭を造っていたそうです。機械も何もない状態からはじまり、現在、炭の研究は10年目。バイオカーボン開発研究室の炭に歴史を感じました。付加価値のある炭を目指す坂輪先生の研究室で造られた炭が、私達の生活に身近になる日も近いのではないのでしょうか。